

第7回ローカルサミット IN 高野山全体プログラム  
「次の開創 1300 年に向かうファーストステップ  
～2050 年の環境・生命文明社会を高野山からデッサンする～」

2014. 10. 15

主催：高野山大学、第7回ローカルサミット IN 高野山実行委員会

共催：高野町、高野山真言宗総本山金剛峰寺、高野山宿坊協会、場所文化フォーラム、  
ものづくり生命文明機構、健康医療開発機構、他

(開催に向けて)

明年、高野山の開創 1200 年を迎える。

この地は、弘仁 7 年(816)空海が嵯峨天皇から認められて寺院を開いたことに始まる。当時、高野は紀伊国伊都郡にあって、16 の峯に囲まれた人跡未踏の平原の幽地であった。

その後、長く真言密教の仏徒の修行の場とし、そして日本の精神文化の聖地として、全国からの貴賤を問わない多くの方々が高野詣で訪れ、10 年前の世界遺産登録もあって、多くの外国人の方もここに訪れている。

こうした中で、山上に住む僧侶以外の商人や職人の入山も、300 年ほど前から漸増し(但し、明治初まで女人禁制であった)、寺院の長屋を借りたり、麓の住人が移り住み、その後、明治 21 年の大火後に寺院の統廃合により 130 ヶ寺になり、寺院の間に町家が並ぶ山上の町の原型ができあがった。そして昭和 9 年弘法大師千百年忌のとき、大規模な区画整理が行われ、現在の町並となり、いわば町が形成された。

そして、今、高度成長期以降、この町にもおよんできた右肩上がりの経済(特にモータリゼーションの急速な展開と相まった観光客の増勢と商取引の拡大)への期待継続の一方で進む地元人口減少等によって、聖地の暮らし(コンパクトシティー)がどんどん歪められてきてはいないか?このままでは 50 年、100 年後の未来像を描けなくなってしまっているのではないかと、といった危機感を抱く 3~40 歳代の青壮年層を中心に、これまでの延長線上に未来を展望する従来の認識を刷新する自己認識の場を作り、開創 1200 年の次なるステップを、外部の方々と一緒に語り合いたいとの強い思いが表明された。

同時に、日本、そして世界は、今、大きな変革期を迎えている。日本では、旧来の拡大・成長の中で豊かさを享受したいという価値を守ろうとする物言わぬ保守の力が底流する一方で、リーマンショック、及び東日本大震災・原発問題を機に、グローバリズム一辺倒から脱却し、社会・自然環境制約の中でも心の豊かさを確保し、いのちがきちん

と繋がる地域社会を目指そうという草の根の動きも着実に交錯しつつあり、変革期の様相を呈している。また、世界情勢をみても、旧来型のイデオロギーと武力での処理対応が行き詰まりをみせつつも、新たな地平が開けず、問題先送りの様相が強まっている。

こうした状況下、我々全国から集う志民は、過去6回に亘るローカルサミットの中で紡ぎ出してきた方向性（これまでの効率・成長のグローバリズムの延長線上ではなく、忘れかけているローカルの仕組みや森里海連環等の様々なつながりの再構築に解決の糸口を見つけ、場所文化を甦らせ、いのちが輝き、営々といのちが繋がる、環境・生命文明の構築をめざす）を一段と明確に具現化すべく、この7月に中央環境審議会で見聞具申された「環境・生命文明社会の創造」をキーワードに、迫りゆく環境問題をクリアしつつ、いのち・暮らしが持続可能となる循環共生型社会を、2050年の近未来に描き出し、そこに向けたローカルからの具体的アクションプランを、上述のような強い問題意識をもつ高野町の志民の方々と一緒になって、日本の精神文化の聖地で、かつ開創1200年の節目を迎える高野山でデッサンし、確たる拮抗する動きとして発信し、展開していきたいと考える。

——我が国政府は、平成24年4月の閣議決定で、先進国としての責任を果たすべく、2050年までに温室効果ガスの80%削減を目指すこととし、その具体的な姿として、例えば最終エネルギー消費量の約40%削減（レベルとしては、1970年頃）と再生可能エネルギー比率約50%の達成で実現するとしている。そして、その時の社会は、急速に進む人口減により約一億人程度の1970年頃の総人口（一方で圧倒的に高齢者化が進んでいる）となっていると想定される。

——我々のミッションは、こうした社会・自然環境制約の中でも心豊かな暮らしをどう地域から具体的に描き出せるかである。

## （11月1日）

○13時～：高野山大受付（適宜、大学の食堂、イベント会場にて昼食）

○14時～17時45分：キックオフミーティング（黎明館と大教室）

「2050年の環境・生命文明社会を高野山からデッサンする」

——場所は黎明館と大教室、司会、吉澤保幸（場所文化フォーラム・ローカルサミット事務総長）

★14時～14時5分／開会の宣言と挨拶（吉澤、高野山大学藤吉副学長）

★14時5分～16時5分／キーノートスピーチ＋一言コメント（6名@20分）

・平野嘉也（高野町町長）

「高野町の2100年ビジョン」（仮題）

・中井徳太郎（ものづくり生命文明機構常任幹事＜環境省審議官＞）

「環境・生命文明社会の意義と創造戦略」（仮題）

——大教室へ移動（14時45分～15時）

- ・石田秀輝（同理事<合> 地球村研究室代表社員、東北大名誉教授>）  
「2050年に向けたライフスタイル&テクノロジーイノベーション」（仮題）
- ・森勇介（阪大大学院工学研究科教授）  
「環境・生命文明社会における科学技術の役割」（仮題）
- ・畠山重篤（NPO「森は海の恋人」代表）  
「東北の復興からの2050年展望—森里海の連環から—」（仮題）
- ・丹生晃市（丹生都比売神社宮司）  
「高野山と神仏習合」（仮題）

★16時20分～30分／休憩とテーブルセッティング

★16時30分～17時50分／パネルディスカッション（2日目の分科会に向けた視座）

「2050年に向けた社会イノベーションの視座（この間見失ったものをどう取り戻すか？）  
～森里海連環、経済、時間、健康・医療、教育、祈り等の諸観点から～」

- ・司会進行：岸本吉生（ものづくり生命文明機構常任幹事<九州経済産業局長>）
- ・パネリスト：田中克（京都大名誉教授、森里海連環学）、谷口正次（同理事<環境・資源ジャーナリスト>）、内山節（同理事<立教大大学院教授、哲学>）、清水昭（同理事<三宿病院脳卒中センター長>）、+（若手コメンテーター、地元関係者）

○17時50分～18時：今後の案内等

○18時～19時：各宿坊へチェックイン

○19時～21時：オープニングレセプション（高野山大食堂、式次第未定、第1～6回開催地報告を含む）

○21時～：二次会（ナイトツアー等未定）

## （11月2日）

○6時～12時：勤行、朝食、高野山内を散策（幾つかのオプションツアーに適宜参加）

○12時～13時半：昼食（高野山大食堂）

○13時半～18時：分科会／全体共通テーマ「50年、100年後に何を残すか？」

—いのち（生きとし生けるもの）の暮らしをどう取り戻すか？—

——<第一部>大教室で、皆で「高野山のこれまでの100年を知る！」

★13時半～14時：80年前の高野山（御遠忌100年<昭和9年>記念ビデオ上映）

★14時～14時45分：対談「高野山の過去、現在から未来を観る」

司会：飛鷹全法（実行委員会事務局長）

対談者：藻谷浩介（日本総合研究所調査部主席研究員）、高橋寛治（高野町元副町長）

★14時45分～15時10分：今の高野山を見る（高野山に暮らす方々へのインタビュー・ビデオ上映と作成者の田代さん<高野町役場職員>からの幾つかのコメント等）

——<第二部> 4分科会教室で、「高野山のこれからの 100 年を語り合う！」

★15 時 10 分～15 時半：各分科会会場（高野山大内教室）へ移動＋休憩

★15 時半～18 時：分科会討論（第一部からの問題提起を巡っての域内外からの議論）

—4 分科会名とそこに織り込まれるキーワード群

1. “ともに”：自然共生・循環、山上と里、お金、コミュニティー
2. “つむぐ”：教育、ものづくり・家業、デザイン、伝統文化
3. “いのち”：食、子育て・介護福祉、環境保全・エネルギー
4. “いのり”：観光、信仰・神仏、フクシマ・東北復興

—各分科会では、地元のコーディネーター（2,3 名）と域外のメインサポーター（数名）の連携のもと、自由な討論を誘発しつつ、100 年後に向けての課題を抽出して行き、翌日の分科会報告へ

——18 時に高野山大学から、各宿坊へ移動

○18 時～20 時：各宿坊で夕食・入浴

○20 時～21 時半：内外交流会（ドリンク＋α でのフランクな交流会、場所未定）

○21 時半～23 時半：ナイトツアー（その他オプションツアーから適宜選択）

### （11 月 3 日）

○9 時～10 時：分科会報告（高野山大教室）／各テーマ@15 分程度

○10 時～10 時半：高野山中学生による「高野山の未来へ」（仮題）の発表

○10 時半～11 時 45 分：最終総括セッション

「2050 年の環境・生命文明社会の創造を巡って—高野山宣言に向けて—」

- ・司会進行：吉澤保幸、飛鷹全法（第 7 回ローカルサミット実行委員長）
- ・パネリスト：安田喜憲（ものづくり生命文明機構副理事長<日文研名誉教授>）、木内孝（同常任幹事<株> イースクエア代表取締役）、亀田慎也（第 6 回ローカルサミット実行委員長<株> 有花園専務）、西平良将（阿久根市長）、平野嘉也（高野町町長）、その他（高野山大関係者、高野山本山関係者等）

○11 時 45 分～12 時 15 分：高野山サミットの総括と宣言発表＋次年度の高野山会議の開催予定＋次年度以降の LS 開催地発表

○12 時半：解散

○12 時半～参加者は適宜昼食を取ると共に、終了後のオプションツアーへ

以上